

## 学科近況

沖縄高専は今年の4月で創立12年目を迎えました。3月には本科生39名と専攻科生（情報工学コース）8名が無事卒業しました。4月には本科生42名、専攻科生（情報工学コース）2名を新たに迎えました。本科新1年生には卒業までの5年間、入学時の夢や希望を実現出来るよう頑張ってもらいたいものです。また、専攻科新1年生も2年間、残る高専生活を満喫していただきたいと思います。タイ国から2名の大学生が、3月と6月からそれぞれ3カ月間インターンシップを行いました。また、学生の海外派遣（台湾、タイ）も行う予定です。これには、旅費の一部に補助が出ます。学生の皆さんには、グローバル化を実感できる良い機会になると思います。積極的な参加をお願いします。このような近況の下で教員一同学生への教育を行って参りますので是非ともご理解とご協力をお願いします。

（学科長：姉崎 隆）

### 各学年の話題（1年生）

気がつけば、1年生が入学してから3ヶ月が経過いたしました。その間、学生たちは慣れない「90分間」の講義、そして、初めての寮生活に悪戦苦闘しながら、様々な経験を積んできました。

4月29日（水）は昭和の日ということで、学校はお休みでしたが、この日、1年生の歓迎と他学年の学生と交流してもらうことを目的とした「体育祭」が開催されました。残念ながら不安定な天候であったため、当初予定していたプログラムの全ては実施できませんでしたが、最後まで盛り上がり、楽しい時間を過ごせたのではないかと思います。

また、5月半ば過ぎの21日（木）と22日（金）には、初めて受ける前学期中間試験に対して抱いているであろう不安や戸惑いを少しでも解消してもらうために、本科2年生以上の学生たちによる実践的な試験対策講座を開催いたしました。参加した1年生たちは、先輩たちから説明された各科目で押さえておくべきポイントや勉強のコツなどを熱心に聞いていました。6月の中旬から中旬にかけて行われた前学期中間試験では、先述の試験

対策講座や学生1人1人の日々の勉強の成果が問われました。今回の試験で予想以上の点数を取れた学生は更に良い点数を取れるように高みを目指して、逆に予想を下回る点数を取ってしまった学生、特に60点未満の赤点を取ってしまった学生は、次回からは絶対に赤点を取らない！と誓って、期末試験に向け頑張りたいと思います。

（1年学科担任：佐藤 尚）

### 各学年の話題（2年生）

高専に入学してから1年が経ちました。学校や90分授業にも慣れ、友人もできて楽しく過ごせているかと思います。もしかすると混合学級で過ごす時間が長いため、まだ学科の意識よりもクラスの意識が強く、学科の友人よりもクラスの友人の方が多いのではないのでしょうか。学科別になる専門科目の数が少ないため当然の結果かもしれません。第2学年になっても、専門科目の数は大きく変わりません。しかし、導入的な専門科目が多かった第1学年とは異なり、第2学年では、プログラミングなど第3学年以上の専門科目の基礎となる重

要な科目が配置されています。ここでの理解が高学年の理解に繋がります。論理的な思考能力が求められるため、苦勞する学生も多いですが、ここが踏ん張りどころです。ご家庭でも予習・復習を行い、しっかりと修得するようご指導ください。

(2年学科担任：玉城 龍洋)

## 各学年の話題 (3年生)

3学年は学科別の学級生活が始まる学年です。人としての信頼関係を基本に様々なことから他者から学べるようなクラスにしていきたいと考えています。4月29日に開催された体育祭には、学生全員がTシャツづくりから参加して親睦を深めると同時に団結を強めました。入学後すぐに進学や就職の準備が始まる高校と比較すると、高専では入学後数年間はそれぞれに好きなことを楽しむ余裕があると思います。3学年では、高専入学当時の自分の考えを振り返りつつ、その後数年間で視野が広がり知力体力ともに成長した今の視点で、自分の将来像を描き直してもらい、残り半分の学校生活の目的・目標を見つけてもらいたいと考えています。学校は卒業することが目標で、課程を修了することで人生の次のステージへのステップになります。将来の見通しが立たない時期には修学意欲も下がってしまいがちですが、学校という終わりのある目標と、人生という終わりのない目標とを、結びつけ過ぎないように気をつけ、学校の卒業と卒業後の生活と、それぞれに向けて現実的な努力を積み重ねていってもらうことが大切です。学生には、夏休み中に、自分の卒業後の進路について、保護者に自分の考えを話して一緒に考えるという課題に取り組んでもらう予定です。今後の学生のがんばりには、保護者が学生の興味・関心・希望を理解し、支えていただく姿勢が不可欠です。世間一般に評判の良い会社や学校が必ずしも個々の学生にとって最良の進路選択であるとは限りません。学生の希望や実際の取り組みを踏まえた進路指導が実現するよう、学生の言い分を聞くことを共通基盤としながら、家庭ともタッグを組んで取り組めればと考えます。12月に予

定されている研修旅行については、3年生の保護者に同封している学級だよりをご参照下さい。



体育祭での記念写真 (3年メディア)

(3年担任 西村 篤)

## 各学年の話題 (4年生)

4学年では、夏休み期間を利用して企業などで就業体験を行うインターンシップが必修科目として行われます。実施は約2か月後で、現在、企業とのマッチングやビジネスマナーの学習などの事前研修が行われています。学生たちは、職業として自分がどんな仕事に就きたいのか、何のために働くのかなど、自分の将来について考え始めています。全ての学生が希望の職種や企業で就業体験できる訳ではありませんが、将来の就職活動に対してはもちろん、現在学んでいることがどのように社会で使われ役立つのか、働くということの意義などを学ぶ大変有意義な体験になると考えられます。学校の中だけでは分からない、実際の企業の現場でこそ分かり感じられる仕事の内容や職場の雰囲気など、多くの事を吸収できるこの良き機会を通して、自分が何をしたいのか、何ができるのか、これからの残りの学生生活で何をすべきかを真剣に考えて欲しいと思います。ご家庭におかれましても、この機会に是非これらについて会話して頂き、人生の良き先輩としてアドバイスを頂ければと思います。

(4年副担任：インターンシップ担当・鈴木大作)

## 各学年の話題（5年生）

### 学級状況

本科の最終学年がスタートし、就職や進学の準備に追われ落ち着かない時期を迎えています。また、本科で学んだ知識や技術を応用しながら1つの研究テーマに取り組む「卒業研究」も始まりました。5年生では全科目合格しなければなりません。卒業まで気を抜かず、楽しい学校生活を送ってほしいと思います。

### 進路の活動

6月12日現在で卒業見込者38名中、進路別希望は進学希望7名（18.4%）、就職希望31名（81.6%）です。5年生の進路指導は、配属研究室の指導教員が個別に行っています。5年担任や本校キャリアアドバイザーがサポートすることもあります。いずれにしても、学生自身が「行動」をしなければ、内々定や合格を手にはできません。あきらめないこと、早めに準備をすることが進路先決定のコツだと思います。また、就職や進学の学校推薦のためには「推薦願」に学生と保護者の自署が必要です。自署の際には「推薦願」に書かれている事項をよくお読みいただきますよう、お願いいたします。

（5年担任：太田 佐栄子）

## その他の話題

### 【起業家甲子園全国大会出場】

3月3日に東京で開催された起業家甲子園（国立研究開発法人情報通信研究機構主催）の全国大会にチーム「きゃらめるぷでいんぐ」（生田輪太郎、春木竜生（4年）、島袋瑞樹（3年））が出場しました。

起業家甲子園では11校からビジネスプランが発表され、「きゃらめるぷでいんぐ」は協賛企業特別賞を受賞しました。



起業家甲子園授賞式

### 【Kakehashi-project で北米に派遣】

日米の学生交流を目的とした外務省の事業である Kakehashi-project に参加し、明石高専と沖縄高専合わせて21名（内メディア情報工学科から9名）の学生がアメリカのサンゼルス、サンフランシスコ、ボストンの三都市を訪問して、高専のIT技術を英語でプレゼンしました。

（ICT委員会顧問：正木 忠勝）



成田空港にて



英語によるプレゼンの様子

## 編集後記

学科だよりに関するご意見ご要望等がございましたら、下記連絡先までお知らせください。編集担当者連絡先：

〒905-2192 沖縄県名護市宇辺野古 905

沖縄工業高等専門学校メディア情報工学科バイティガ ザカリ

TEL 0980-55-4003（代） FAX 0980-55-4012（代）